

対策会議に参加	
高次脳機能障がい者支援関係職員研修会に参加	帯広保健所（10月30日） 「子どもの脳外傷と軽度脳震盪への対応」
石狩ネット肢体不自由部門学習会に参加	札幌豊成養護学校（12月5日） 「福祉サービスの現状とこれからの展望」
高次脳機能障害者支援情報マップ作成事業にワーキング委員として参加	千葉リハビリテーションセンターが事務局となって作成中。 6月17日、9月1日、12月22日、3月23日（予定）

## 1 支援プログラムの実施状況

### (1) クラブハウスコロポックル（就労継続支援 B 型事業所）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
利用者数	29	28	28	27	27	27	28	27	25
延べ人数	322	325	345	321	274	288	327	307	281
1 日平均	16.1	16.3	16.4	14.6	15.2	13.1	14.2	14.6	13.3

### (2) コロポックルレディース（地域活動支援センター）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
利用者数	22	22	23	21	24	24	26	23	29
延べ人数	222	201	222	226	190	214	237	233	179
1 日平均	11.1	10.0	11.1	11.3	9.5	10.7	11.8	11.6	8.9

## 2 支援事例の支援計画の作成と評価

### (1) クラブハウスコロポックル

作成実績	利用者に対し、1～2 回の家族面談を実施、支援計画を立案
評価内容	約 6 ヶ月毎に本人・家族が 10 段階評価、その他随時状況を確認。

### (2) コロポックルレディース

作成実績	利用者に対し支援計画立案。
評価内容	一年毎に本人・家族が前回面談の振り返り。随時状況確認。

## 3 支援調整・会議の開催

### (1) 法人内担当者会議の開催

支援プログラムを実施する全事業所合同の共通ケース会議を定期的に行い、支援方針の検討及び確認。

開催日	4月26日	5月29日	6月29日	7月24日	8月30日	9月24日	10月24日	11月27日	12月20日
参加者数	11	9	10	7	10	9	9	9	8

(2) 対外機関との支援調整

①クラブハウスコロポックル

開催日	ケース	関係機関	人数	開催場所
		内容		
5月10日	M氏	グループホームS	5	クラブハウスコロポックル
		今後の生活及び日中活動に関する打ち合わせ		
6月5日	H氏	拠点病院・相談支援事業所・介護保険事業所	5	北大病院リハ科
		情報の共有、支援者の顔合わせ。		
7月17日	M氏	グループホームS	3	クラブハウスコロポックル
		問題行動の振り返り、及び、今後の方針の策定。		
8月2日	M氏	グループホームS	3	クラブハウスコロポックル
		受診の報告。転居に向けての進捗状況確認		
9月6日	H氏	拠点病院・相談支援事業所	6	北大病院リハ科
		制度等の利用に関する家族への説明、意思確認		
10月9日	D氏	拠点病院・精神科デイケア施設	6	北大病院リハ科
		うつ症状の発症をうけて、支援機関相互の情報共有と支援の統一		
10月23日	M氏	グループホームK	5	クラブハウスコロポックル
		今後の生活及び日中活動に関する打ち合わせ。		

②コロポックルレディース

開催日	ケース	関係機関	人数	開催場所
		内容		
10月24日	H氏	病院（医師・SW）	4	中村記念病院
		病状説明と転院に関する打ち合わせ。今後の方針の策定。		
11月29日	K氏	拠点病院	4	北大病院リハ科
		検査結果、および日中活動での注意事項の共有。		

(3) 家族、当事者に対する支援調整等実績

①クラブハウスコロポックル

家族との連絡調整	家族面談：16回 電話連絡：随時
当事者との面談	随時

②コロポックルレディース

家族との連絡調整	家族面談：1回 電話連絡：随時
当事者との面談	随時

#### 4 関係機関相互の情報交換及び状況の把握

当事者支援にかかわる下記のような形態の機関と、必要に応じて連携を図っている。

関係機関の種類	内容
グループホーム	トラブル拡大の抑止及び早期発見のための情報共有。
日中活動系事業所	複数の事業所を利用する者について、利用日の調整、目標や課題の共有、高次脳機能障害が起因のトラブルへの助言
相談支援事業所	本人の現況報告、家族支援に対する助言、制度利用や申請の進捗状況の確認。
拠点病院	精神症状の変化に対する、医学的な対応の依頼。支援担当者会議開催依頼。
医療機関	診察同行による客観的立場での状況報告。各種制度申請に伴う情報提供依頼。

#### 5 支援ネットワークの構築、及び、支援技術の普及

支援プログラムを実施する2事業所の利用者の中には、高次脳機能障害者を受け入れている事業所がほかにないという理由で通所している者も存在する。それは、事業所の立地、活動内容など、当事者にとってより好条件の事業所がほかにあるものの、高次脳機能障害者への環境調整が困難という理由のみによって希望を阻まれているともいえる。

一方で、既存の相談支援事業所や日中活動系事業所にとっても、実際に高次脳機能障害者を支援する（しなければならない）場面に出くわさないと、障害特性や支援方法の習得に至らないのが現実とも感じている。

そこで今年度は、当事者にとってより適した事業所に移行させるため、相談支援事業所等との協力関係の中での事業所開拓、開拓の結果利用に至った事業所と協同での当事者支援、その過程を通して、ネットワーク構築と支援技術の普及を目指すものとした。

これまで3事例について実践し、他事業所に移行できたのは1事例のみであるが、ネットワークの構築や、障害特性に沿った事業所選択の方法の伝達には、効果があったものとする。

No.	ケース	内容
1	A氏	<p>&lt;概要&gt;40歳代、男性、交通事故による外傷性脳損傷、びまん性軸索損傷 記憶障害、遂行機能障害があるが、特に著しい感情抑制の欠如あり。場所を選ばずに怒号する。通所途中の様々な刺激がストレスになっており、居住地域近くに活動場所を移すことで、活動以前の場面での負荷を減らし、安定につなげる。</p> <p>&lt;協力機関と支援経過&gt; 機関名：就業・生活支援センターのいける（石狩市） 現時点では、圏域に高次脳機能障害者の受入れ体制がある事業所はなく、時間をかけて開拓していく方向。家族の意向、本人の意向をそれぞれ場面を変えて確認。</p> <p>&lt;現況&gt;受入れ依頼をする事業所について絞込みを行ったものの、本人の精神状</p>

		<p>態悪化が進み、計画が中断中。</p> <p>&lt;実施回数&gt;調整(機関): 8回、調整(家族): 11回、同行: 2回、会議: 4回</p>
2	I氏	<p>&lt;概要&gt;60歳代、男性、小脳出血</p> <p>意欲発動性低下に加え、加齢に伴い身体能力低下も顕著。現在の事業所の利用においても、その通所での移動距離や乗換えの複雑さ、歩行距離の長さなど、負担が大きくなり、継続困難。一方、高齢者対象の事業所の利用は拒否。最低限、機能維持を図るためにも、居住地域に日中活動の場を探す。</p> <p>&lt;協力機関と支援経過&gt;</p> <p>機関名: 相談室 いね (札幌市障がい者相談支援事業所)</p> <p>本人や家族の意向を受けてR地域活動支援センターを紹介され見学するが、利用に対して本人は後ろ向き。</p> <p>&lt;現況&gt;紹介された事業所の3月末での休業が決定。再度、事業所を探す方針。</p> <p>&lt;実施回数&gt;調整(機関): 2回、調整(家族): 4回、同行: 1回</p>
3	K氏	<p>&lt;概要&gt;40歳代、女性、交通事故による脳挫傷</p> <p>記憶障害、遂行機能障害、病識欠如のほか、著しい感情抑制の欠如あり。独居。かねてから一般就労の希望が強く当事業所利用に抵抗感があったが、就労準備として障害認識・対人スキル・生活リズムそれぞれの向上を図る目的で利用。しかし、支援関係の深化が問題行動の多角的な分析を困難にさせ、その改善や希望に近い日中活動を実現する目的で、他の事業所の支援も加えて受けることとした。</p> <p>&lt;協力機関と支援経過&gt;</p> <p>機関名①: 相談室 あゆみ (札幌市障がい者相談支援事業所)</p> <p>当事業所の支援では、記憶違いなど障害を起因とするトラブルや支援の停滞を多く経験しており、本人と新たな機関との関係構築を支援。本人は、実践的な就労準備ができる場を希望し、それに即した情報提供を受ける。</p> <p>機関名②: カフェ・ド・モデル (就労継続支援B型事業所)</p> <p>情報提供の事業所。見学・試験的利用を経て正式利用開始。</p> <p>利用にあたり、別途カンファレンスを実施し、混乱を防ぐ支援体制として、就労・制度関係は相談室が、生活全般は引き続き当事業所が担当する方針をとる。</p> <p>&lt;現況&gt;障害特性や対応に関する情報を提供し、それぞれの機関と本人との間での問題解決を促がした。現在では、当事業所の介入なしで問題解決が出来ることが多く、一定の成果を上げている。</p> <p>&lt;実施回数&gt;調整(機関): 17回、調整(家族): 1回、同行: 6回</p>

## 6 各地域相談担当者やサービス提供事業所への支援状況

実施日	関係機関名	支援状況
11月14日	厚別区自立支援協議会幹事会	高次脳機能障害者の施設支援や制度利用に関する事例報告及び意見交換

## 平成24年度 リハビリ提供・地域生活支援事業【在宅生活支援事業】中間報告

財団法人 北海道精神保健推進協会  
こころのリカバリー総合支援センター

### ●利用者の状況

- ・現在の高次脳機能障がい者利用者数：20名（利用者総人数：約150名）
- ・利用者の開始時の状況：
  - ① 記憶力、遂行機能障害等に対するさらなる回復への期待がある方
  - ② 機能回復のリハ終了後も、生活や社会参加への不安を抱えている方  
（仕事・復学をしたいが自信がない。家事ができない。対人関係が途絶えて孤独。意欲低下）
  - ③ 事業所などでのトラブルが多く、適応が難しかった方  
（本人に障害の認識がなく、安定した生活や対人関係が難しい。）
- ・終了者：1名（体調悪化による入院）
- ・新規通所開始者：1名（意欲低下 活動性の低下 遂行機能障害により通所希望）
- ・1日の高次脳機能障がい者利用者数：月10名 火12名 木14名 金8名

### ●プログラムの提供

午前：脳トレ（認知訓練等）	} 選択による参加
スポーツ・グループ活動等	
ヨガ・軽ストレッチ運動	} 選択による参加
スポーツ・グループ活動等	
小規模グループによる活動	
午後：高次脳機能障害利用者だけのグループ活動	} 選択による参加 (月)
スポーツ・グループ活動	
作品創作・レクチャー活動（火・木）	
スポーツ・グループ活動等（金）	

- ・一定期間で行われる、行事企画の実行委員会や就労グループへの選択による参加
- ・家族同伴面接（半年ごと 現状の確認 今後についての話し合い）

※今年度からプログラムを再編成し、これまでは高次脳独自のプログラムを取り入れていたが当センター一般プログラムへの参加を導入しつつ高次脳機能障がい者用のプログラムを並行して行う形式に改めた。対人関係の広がりなど変化がみられるため経過を観察中である。

### ●移行期の支援

①プログラム活動によるリハビリテーションを経過し他機関（一般就労・就労継続事業所等）への移行期を迎えた方の相談 ②移行先を考えるための同行支援（事業所スタッフとの連携の含め）を行い移行や移行後の定着を支援

●相談支援

当事者家族から：診断前相談（診断はされていないが思い当たる点があるなど）や地域の支援先  
や評価、制度の利用についての相談 支援先としての当センターの利用希望など  
関係機関から：高次脳機能評価や支援の仕方、支援機関についての情報提供など

●他機関との連携

情報提供：デイケアプログラム内でのケースの言動、様子や傾向について今後の支援の参考のため  
関係機関に報告（リハ病院スタッフ、精神科病院スタッフ、訪問支援スタッフ、市町村  
村保健師、家族、職場）

共通する支援者を持つ複数機関のスタッフ内での支援の相談・検討：ケア会議等

（病院SW、相談支援事業所、就労継続支援事業所、地域活動支援センター）

●「在宅生活支援」に関する支援技術について

H24年10月24日 平成24年度高次脳機能障がいリハビリテーション講習会

「精神科デイケアにおける高次脳機能障がい者のリハビリテーション」

～高次脳障がい者がどのように精神科デイケアを活用しているか～報告 作業療法士 浅井直美

H24年11月13日 平成24年度 高次脳機能障がい者支援関係者学習会（滝川保健所主催）

「事例を通して高次脳機能障がい者への支援を学ぶ」

実践報告等ファシリテーター及び講師 所長 阿部幸弘

他、研修会、講演会等の協力、参加

平成24度高次脳機能障害者支援事業「普及啓発支援事業」実績（平成24年12月末現在）

保健所別	普及啓発	関係職員研修	連携会議	事例検討	相談	新規	訪問指導	集団指導	他
江別		9/26. 26名		9/26. 26名	実3. 延13件	3	実1/延4件		
千歳		2月開催予定			実8. 延15件（専門相談会1回、3件）	5	実1/延3件	当事者の会2回延3名 家族2回延12名	
渡島		10/13. 42名	①5/29. 16名 ②2月開催予定	2月開催予定	実2. 延9件（専門相談会4回2件）	2	実3/延6件		・相談窓口周知用リーフレット作成
八雲	2月～3月開催予定	2月～3月開催予定	2月～3月開催予定	必要に応じて実施	実3延9件（専門相談会1回1件）	1	実3/延9件		1～2月にかけて実態調査検討中
江差			2月開催予定			0	実5/延5件	今後開催予定	管内高次脳機能障がい者実態調査実施
倶知安	10/29. 37名	10/29 37名	10/29 22名		実5. 延14件	3	実8/延17件		実態調査・HPに明記
岩内				5/2. 6名		0	実1/延4件		
岩見沢	パンフレット・支援機関一覧・ポスター配付。保健所HP掲載	10/16. 60名	10/16. 29名		実10. 延57件	3	実7/延14件	当事者の集い6回延12名、家族6回延12名	高次脳機能障がい者の支援に関する調査
滝川		11/13. 51名	①6/1 7名 ②9/5 8名 ③2月予定	①9/19. 5名 ②12/26 5名	実9. 延40件	6	実3/延5件	家族の会4回延9名	①施設調査実施②中空知高次脳機能障がい者支援コンサルテーション事業
深川	11/13. 35名	①11/13. 35名 ②2月予定	2月予定	①6/13. 8名 ②12/27. 8名		0	実3/延5件		
上川		9/4. 138名	①5/31. 26名②10/19. 24名 ③2月開催予定	10/19. 24名	実5. 延21件	5	実1/延1件		①医療機関・就労支援事業所受け入れ状況調査②脳外傷リハビリテーション講習会に関する企画・運営・周知協力③JDA 札幌道北支部定例会出席
名寄	9/24. 58名	9/24. 58名	①5/30. 14名 ②9/5. 13名 ③12/5. 12名 ④3/13開催予定	①10/16. 4名②3/5開催予定	実2. 延4件	1	実2/延3件		
富良野	8/10. 61名	8/10. 61名	①5/25. 16名 ②3月開催予定	5/25 16名	実4. 延16件（専門相談会1回0件）	1	実1/延1件		
稚内					実1. 延3件	0	実1/延2件		
留萌	8/2. 99名	8/2. 99名			実1. 延1件	1	実2/延4件	家族の会2回8名	
室蘭	①6/1 27名 ②3月開催予定		11/8. 14名		実8. 延15件	6	実3/延13件	当事者の集い3回5名 家族の会3回10名	
苫小牧	11/27. 29名		①7/25. 20名 ②2月下旬開催予定	7/25. 19名	実28人. 延72件	18	実2/延4件	当事者の会4回（年6回）13名 家族の会4回（年6回）18名	
浦河			3月開催予定			0			
静内		2/13 50名	①7/23. 10名②12/11. 10名	2/13開催予定	実4人. 延17件	1	実2/延3件		
網走		12/7. 41名	12/7. 22名		実2人. 延3件	1			①保健所HP掲載②「アマツ」脳神経外科病院にHPソケット配布
北見		12/7 41名	12/7 22名	12/7 22名	実5. 延14件	4	実2/延5件		①ホームページによる情報提供②医療機関リーフレット③研究会1件
紋別		11/27. 29名			実1. 延1件	0			①普及啓発リーフレット作成・配布②所内HP③自立支援医療システム情報把握
帯広	①9/6. 90名 ②6/13. 15名 ③1/16開催予定	①10/30. 80名 ②10/16. 26名 ③10/19. 15名 ④12/7. 27名	【対策会議】 ①6/20. 19名 ②3/6開催予定 【地域懇談会】 ①2/1②1/30開催予定	1/11開催予定	実12. 延39件	8	実8/延34件	①当事者の集い8回延72名 ②家族の会1回開催予定	①実態調査報告②普及媒体作成③地域社会への啓発④事業報告等（日本公衆衛生学会・北海道地域医療研究会）
釧路	10/27 約60名				実4. 延4件	2	実2/延3件		①自主組織育成②脳外傷リハビリテーション講習会実行委員会参画
根室		3月開催予定		①5/10. 11名 ②12/21. 8名③2月開催予定	実2. 延26件	1			
中標津	8/24 27名								患者組織育成支援 （①6/29 ②11/16）
概要	26保健所のうち23保健所で、延36回の実施。一般住民や支援関係者に対し、啓発普及の講演や研修を実施している。		連携会議を実施しているのは17保健所で31回、事例検討会実施は14保健所で19回実施。会議あるいは事例検討会いずれかを実施しているのは20ヶ所。		相談は19保健所で119人延393件、訪問指導は21保健所で61人延145件を実施。今年度新たに支援対象として74人を把握している。		当事者や家族に対し、小集団の形で主催支援を実施しているのは8保健所		

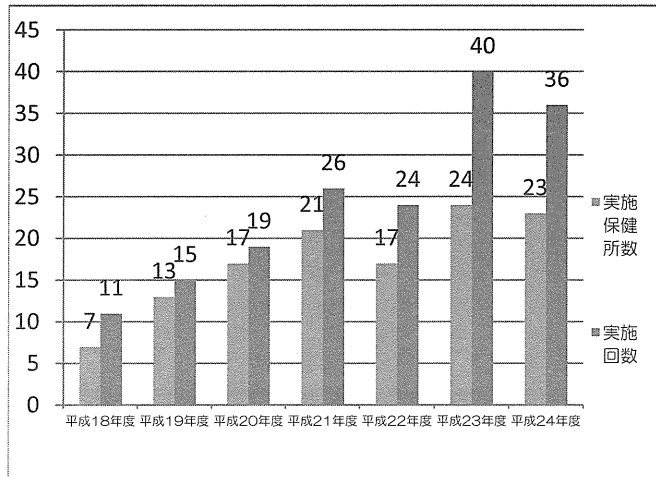


# 高次脳機能障がい者支援事業

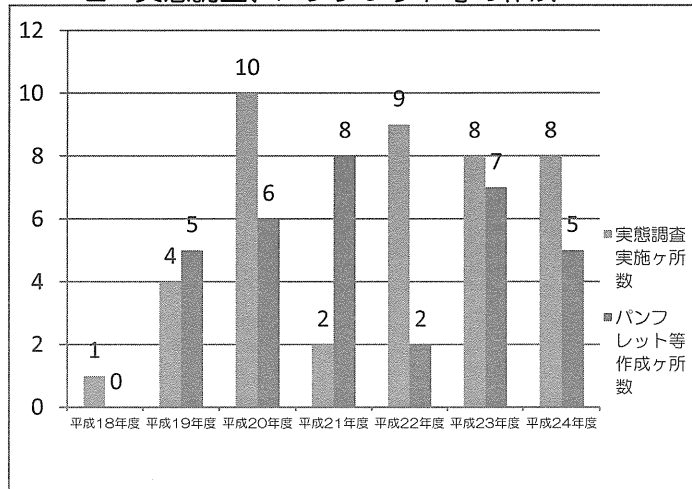
## 「普及啓発相談支援事業」の実績推移（H18年度～H23年度）

平成18年度から平成23年度の6年間の道立保健所における「普及啓発相談支援事業」の実施状況を下図に整理した。 ※ただし、平成24年度については12月末までの中間報告

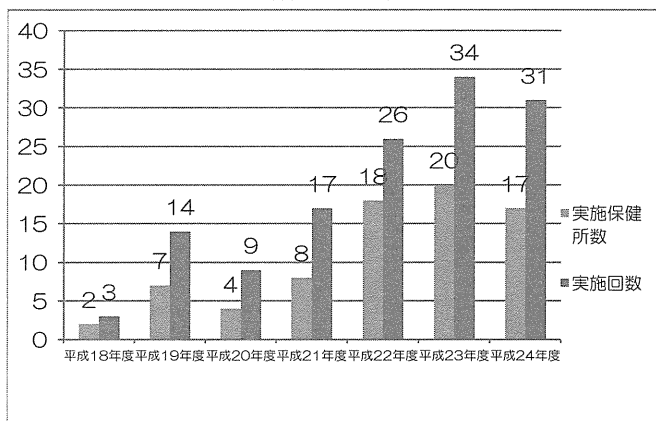
### 1 講演会及び研修会実施状況



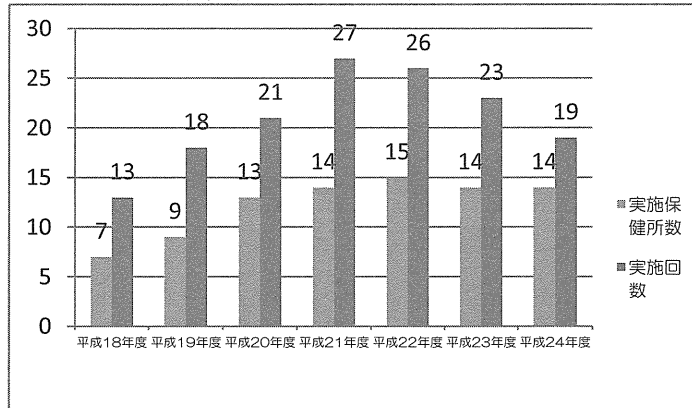
### 2 実態調査、パンフレット等の作成



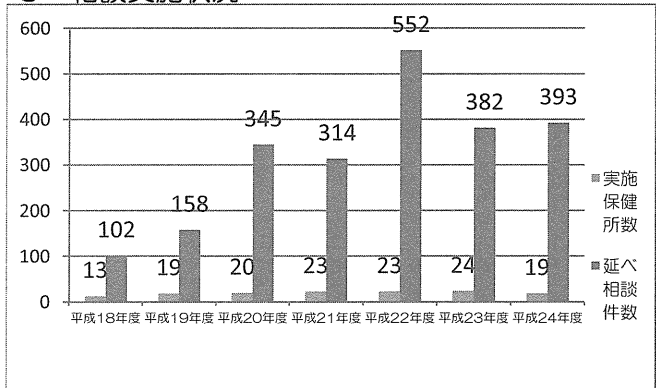
### 3 ネットワーク会議の実施状況



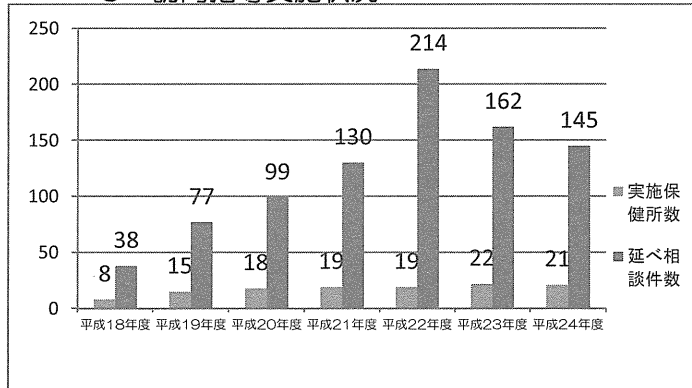
### 4 事例検討会の実施状況



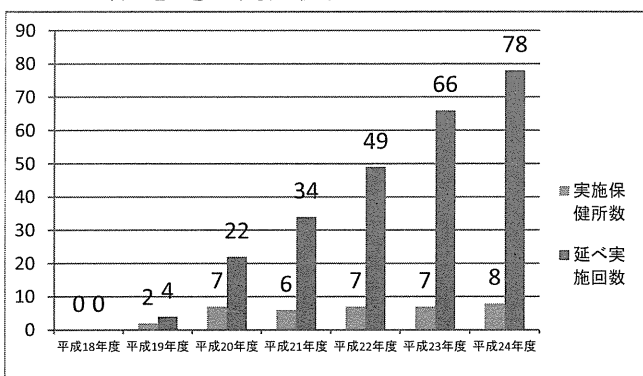
### 5 相談実施状況



### 6 訪問指導実施状況



### 7 「集い」等の開催状況



※研修や会議等、複数保健所による合同開催の場合は、実施回数は各保健所の実施回数として合算し計上。

厚労科研費「高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究」

(H24-精神-一般-009)

厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業）分担研究総合報告書

研究分担者

森悦朗 東北大学大学院医学系研究科高次機能障害学分野 教授

研究要旨

青森，秋田，岩手，福島，山形，宮城の6県に地方支援拠点機関の設置を進め，高次脳機能障害支援普及事業を円滑に実施するための東北ブロック会議を開催した。震災後，高次脳機能障害車支援を停滞させないよう，各県ごとに特色ある高次脳機能障害者支援を推進し，東北ブロック間での情報交換を密にし，支援の地域格差是正，支援内容の均霑化を進めていくことにした。また福島県郡山市で医療・福祉・行政・教育関係者，当事者・家族ならびに地域住民に対して高次脳機能障害の理解について普及啓発を行った。さらに，高次脳機能障害者支援には正確な評価・診断が重要であると考え，若手医師向けセミナー「夏の学校」を開催し，全国から29名の関連診療科の医師が参加した。一方，脳血管障害および正常圧水頭症における高次脳機能障害に関していくつかの臨床神経的知見を得た。

A. 研究目的

1. 支援支援ネットワーク運用

- ・拠点機関同士の支援ネットワークの構築を支援：東北ブロック会議（年度内2回）の開催。
- ・一般住民への高次脳機能障害の啓発と高次脳機能障害者へのサービス普及を図ることを目的に，東北ブロックシンポジウムの開催（1回）。

2. 診療技術向上のための教育活動として若手医師向けセミナーを開催（1回）。

3. 高次脳機能障害の発現の機序について神経科学的手法を用いて解明する。

B. 研究方法

東北大学大学院医学系研究科高次機能障害学分野を中心として，東北厚生年金病院に事務局を置き，各県の協力を得て東北ブロック会議を開催する。また，東北ブロックシンポジウムを開催し，東北6県での高次脳機能障害者の地域支援体制を構築する。

個人データを調査する際には下記の倫理面での配慮をなす。

（倫理面への配慮）

調査研究は所属する施設の倫理委員会の承認を経て実施する。調査対象者及び保護者・関係者から，文書等にてインフォームドコンセントを徹底し，調査対象者または保護者・関係者が納得し自発的な協力を得てから実施した。調査対象者の個人情報等に係るプライバシーの保護ならびに如何なる不利益も受けないように十分に配慮した。

C. 研究結果

東北ブロック会議を開催し，各県の現状把握と情報交換を図り，東北6県における高次脳機能障害支援普及事業を推進した。

東北ブロックにおけるさらなる支援普及を目指し，東北ブロックシンポジウムを開催した。平成24年度は福島県郡山市労働福祉会館で開催し，

225名の参加があった。シンポジウム開催を機に各県の主として一般住民の高次脳機能障害の理解が進んでいると考える。

高次脳機能障害の支援の前提である評価診断が重要であることをふまえて、平成24年8月には日本脳外科・神経内科・精神科・リハビリテーション科等の領域の若手医師を対象に行動神経学セミナー「夏の学校」を開催し、全国から29名の医師が参加した。

脳血管障害および正常圧水頭症における高次脳機能障害に関して神経科学的に検討し、いくつかの新知見を得た。

D. 健康危険情報 特になし

#### E. 考察

平成21年に東北6県では各県に1つ以上の支援拠点機関が設置され、各県ごとに就労・就学支援、家族会支援等に努めてきた。しかし、各県の高次脳機能障害に関する地域生活推進に関する高次脳機能障害支援普及事業の取り組みについては、県ごとに状況や体制が異なっていること、先に支援拠点機関が設置された県（地域）と新しく支援拠点機関設置県（地域）では取り組みや体制に差が生じており、支援内容が一定の水準に達しているとは言い難い。また今回の震災・原発事故の影響で、より支援体制の格差が広がり、高次脳機能障害者への支援も若干後退せざるを得ない状況にあることも否めない。特に東北沿岸部では、津波被災により人口流出が大きく、支援者であるべき医師・看護師の不足も目立ち、支援を受けるのに他地域への移動を余儀なくされ、県を越えた相談支援を進めて行く必要も出て来ている。そのためには今後も実態把握を進め、各県の支援体制の情報共有が大きな課題であると考えられる。よりよい高次脳機能障害支援の普及のために今後とも各県が鋭意努力していくことが重要である。

高次脳機能障害の理解ならびに支援拠点機関を中

心に、各県の取り組みについて、医療・福祉・教育および行政関係者ならびに一般市民への啓発を目的とし、毎年東北ブロックシンポジウムを開催してきた。これにより、一般住民への理解が進み、各県の方向性が決まりつつある。

今後も医療機関で診断・評価および急性期から回復期の治療を経た高次脳機能障害者が、地域で生活するための受け入れ機関の確保および就労支援等、医療機関と福祉機関（あるいは教育機関も含める）の連携が大きな課題になると考える。各県における高次脳機能障害者支援の均霑化を目指すとともに、県を越えた支援も視野に入れた連携体制の確立のために拠点機関および支援コーディネーターの連携の強化、ならびに更なる診断評価の充実と支援体制の確立を図り、高次脳機能障害者が生活しやすい環境整備に力を注いでいく必要があると考える。

また、小児期に発症もしくは受傷した高次脳機能障害者の就学・就労状況の把握と評価および支援の方法については次年度以降さらに検討していく必要があると考える。

#### F. 研究発表

論文発表

西尾慶之、森悦朗. 血管性認知症の精神症状と行動異常：病変部位と病変量の効果について. *Dementia Japan* 26:89-96, 2012

菅野重範、森悦朗. iNPH と高次脳機能障害. *Clinical Neuroscience* 30:417-419, 2012

Nishio Y, Mori E. Delusions of death in a patient with right hemisphere infarction. *Cogn Behav Neurol* 25:216-223, 2013

学会発表

目黒 祐子, 藤盛寿一, 佐藤 滋, 森 悦朗: 右半球病変により漢字の失書を呈した多発性硬化症の一例, 第36回日本神経心理学会, 東京, 2012年9月

## 平成 24 年度東北ブロック事業報告

東北ブロック統括  
東北大学大学院医学系研究科  
高次機能障害学分野 教授 森悦朗

### 【平成 24 年度東北ブロック活動方針と実績】

#### 1. 支援拠点機関の設置推進と支援ネットワーク運用

- 拠点機関同士の支援ネットワークの構築を支援：東北ブロック会議（年度内 2 回）の開催。
- 高次脳機能障害の啓発とサービスを利用していない高次脳機能障害者の減少を図ることを目的に、東北ブロックシンポジウムを福島県にて開催。詳細は報告書参照。  
平成 24 年 10 月 13 日（土）13：00～16：30 郡山市労働福祉会館 225 名参加。
- 東北ブロックの支援体制の均恬化、および各県内での支援体制の均恬化を図る。
- 高次脳機能障害の診断医養成のため、若手を対象に「高次脳機能のみかた医師向けセミナー夏の学校」の開催 平成 24 年 8 月 3 日（金）、4 日（土）ラフォーレ蔵王にて。
- 認知リハビリテーションの医学的評価と技法と評価尺度の開発継続
- 東北ブロック傘下の連携医療機関の患者を通じたリハビリテーション技法の臨床効果のデータ集積
- 医学的にリハビリテーションを受けた患者の長期帰結と福祉モデルにおける評価方法の研究開始
- 高次脳機能障害者の認知リハとその後の社会復帰状況の共同調査を進める
- 外傷性脳損傷に対する画像検査法の開発

#### 2. 就労支援体制の整備継続

- 東北ブロック各県下での自立支援法による高次脳機能障害者受け入れ可能な施設の調査を踏まえた実用的なネットワーク構築
- 就労支援状況の実態調査

#### 3. 東北ブロック拠点機関

青森県 財団法人 黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーション病院 0172-45-2231（代）

秋田県 秋田県立リハビリテーション・精神医療センター 018-892-3798（直）

岩手県 財団法人 いわてリハビリテーションセンター 019-692-5800（代）

山形県 山形県高次脳機能障がい者支援センター・国立病院機構山形病院 023-681-3394（代）

山形県庄内高次脳機能障がい者支援センター・庄内医療生活協同組合鶴岡協立リハビリテーション病院 0235-78-7511（代）

宮城県 宮城県リハビリテーション支援センター 022-286-3222 (代)

社団法人 全国社会保険協会連合会 東北厚生年金病院 022-259-1221 (代)

福島県 財団法人 脳神経疾患研究所附属総合南東北病院 024-934-5564 (直)

### <平成24年度 東北ブロック会議>

第1回 平成24年10月13日(土) 11:00~11:45 場所:郡山市労働福祉会館 第二会議室  
出席自治体 青森県、秋田県、岩手県、山形県、宮城県、福島県 参加者 計18名  
議事

1. 東北ブロックシンポジウムの開催について

2. 各県の高次脳機能障害者支援の取り組みおよび現状報告

3. その他の話題

・各県内の均霑化を進めて情報を流して行くように。先日宮城県では被災地域の気仙沼では家族会が立ち上がった。(震災前に市立病院が勉強会をすすめていたのと元々交流会を開催していたのが合体した。)このような事例を参考にして進めて行くといいだろう。

・高次脳機能障害は全国的に知られて来た。普及は大事だが、正しい知識を正しい方向へ進めて行かないと行けない。高次脳機能障害の運転についての話題もマスコミで取り上げられて来ている。ある事故をきっかけに一概に運転がだめということにはなる可能性も出てくるので、正しい方向に戻しながら進めて行く必要がある。情報交換の場としてブロック会議を活用していけるとよい。

3. 東北ブロックの今後の取り組みについてその他連絡事項

次回のブロック会議について 平成25年2月1日(金) 仙台にて開催予定

4. 次年度以降の東北ブロックシンポジウムについて

平成25年岩手県で開催することを快諾いただいた。

第2回 平成25年2月1日(金) 14:00~16:00 場所:宮城県庁舎1601会議室

出席自治体 青森県、秋田県、岩手県、山形県、宮城県、福島県、オブザーバー参加 仙台市  
参加者 計23名

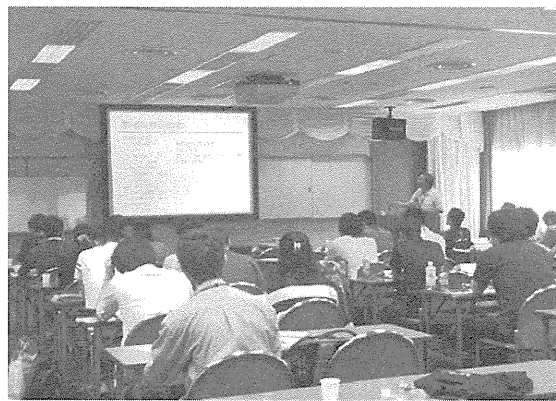
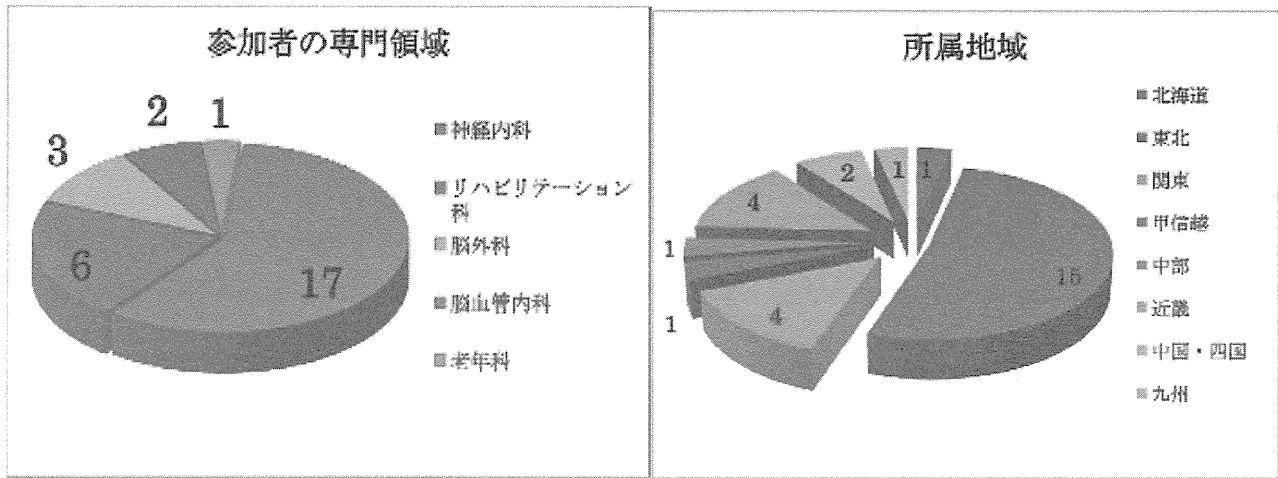
議事

1. 今年度のブロック方針確認

2. 各県からの報告 各県の状況(今年度上半期分)と今後の方針 (詳細は別紙)

3. ブロックシンポジウム報告:225名(講師・座長 7名、一般参加195名、スタッフ、21名、報道機関2名)参加。医療関係者特にSTの参加が多かった。アンケート集計については別紙の通り。おおむね関啓子先生の講演に対して好評を得た。

4. 若手医師向けセミナー「夏の学校」を開催し、若手を中心に九州・北海道から神経内科医・脳外科医・リハ医などが29名参加した。蔵王のホテルで缶詰学習。概ね好評で次年度も開催予定。近隣の若い先生方にも案内をしたい。今年度も広義の高次脳機能障害について講義を予定。



#### 6. 東北ブロックシンポジウム開催について

- ・平成25年度10月27日（日）岩手県産業会館 大ホールにて開催決定。
- ・平成26年度11月30日（日）仙台国際センターで開催予定。高次脳機能障害学会の市民向けシンポジウムとして開催

#### 7. その他の話題

- ・杏林大学で発案の、緊急時、うまく説明が出来ない高次脳機能障害者のための救急シートホルダーの試みについて。（福島県）
- ・高次脳機能障害者の運転技術に関する話題。東北と関東の地域差があり、車の意味するものも違う。岩手と東北地域での評価検討を進めていきたい。まずは各県の情報を知りたい。（岩手県）
- ・青森・宮城・福島・岩手で現在地域支援マップを作成中で、今後 HP にて公表予定である。他県の情報を共有できると、県を越えて事故にあった高次脳機能障害者を地元の医療機関に直接紹介する際に拠点病院を経由せずに活用できるのではないか。そのためには公表の可否についても確認の上、各医療機関がどのような体制で受け入れ可能か（評価診断、訓練、退院後の支援体制の有無など）等の情報をブロック事務局に集約し、情報を共有できるように進めて行くことを確認した。
- ・宮城県の拠点施設：宮城県リハビリテーション支援センターが平成25年度より名取市に移転し、東北厚生年金病院が経営母体の変更とともに東北薬科大学病院に名称変更となる。

【各県における取り組み（平成24年4月～平成25年3月までの集計）】

支援拠点機関名

（財）黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

支援コーディネーター（職種）

言語聴覚士 1名

医療ソーシャルワーカー 1名

当事者／家族からの直接相談のべ件数（H24年度の4月1日からH25年3月31日まで）

電話	78 件
来院／来所	39 件
メール・書簡	2 件
その他（訪問・出張・同行等）	0 件

機関・施設等からの間接相談のべ件数（H24年度の4月1日からH25年3月31日まで）

電話	66 件
来院／来所	0 件
メール・書簡	3 件
その他（訪問・出張・同行等）	0 件

主催した会合・対象者・参加人数（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・交流会  
相談会・ケース会議など）

- ・拠点機関内検討委員会  
日時：2012/5/8 参加者：3名  
日時：2012/7/10 参加者：12名  
日時：2013/3/6 参加者：11名
- ・青森県高次脳機能障害連絡調整会議  
日時：2012/7/27 参加者：12名
- ・青森県高次脳機能障害者リハビリテーション講習会  
日時：2012/12/15 参加者：149名
- ・家族交流会  
日時：2012/6/23 参加者：7名  
日時：2012/9/15 参加者：9名  
日時：2012/11/17 参加者：11名  
日時：2013/2/2 参加者：12名
- ・ケース会議（院内）計16回 参加者33名

主催はしていないが、協力・出席した会合（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・交流会相談会・ケース会議など）

- ・平成 24 年度相談支援従事者現任研修  
日時：2012/8/28
- ・平成 24 年度障害者ケアマネジメント実践研修会 in 弘前  
日時：2012/10/5
- ・高次脳機能障害者支援マップ作成事業ワーキング検討会議  
日時：2012/6/17  
日時：2012/9/1  
日時：2012/12/22  
日時：2013/3/23

広報・啓発活動（パンフレット・機関誌・ウェブサイト・冊子・DVD 等の発行や配布など）

- ・当院 HP 掲載

調査・情報収集活動（実態調査・地域支援機関マップの作成など）

- ・準備中（アンケート調査）

診断評価・リハビリテーションなど

- ・診断・評価・診断書作成

その他の支援活動    なし

#### <秋田県>

支援拠点機関名

秋田県立リハビリテーション・精神医療センター

支援コーディネーター（職種）

3名(作業療法士1名 精神保健福祉士2名)

当事者／家族からの直接相談のべ件数（H24年4月1日～H25年3月31日まで）

電話	25件
来院／来所	5件
メール・書簡	2件
その他（訪問・出張・同行等）	件

機関・施設等からの間接相談のべ件数（H24年4月1日～H25年3月31日まで）

電話	28件
来院／来所	3件



メール・書簡 6件  
その他（訪問・出張・同行等） 件

主催した会合・対象者・参加人数（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・交流会  
相談会・ケース会議など）

- ◇ ケース会議(高次脳機能障害入院患者に対する院内カンファレンス) 59回 471名
- ◇ 高次脳機能障害講演会（日本損害保険協会助成）1回 139名  
対象：当事者とその家族、医療・福祉・行政などの分野で高次脳機能障害に関わる方、高次脳機能障害に興味がある方
- ◇ 院内勉強会(秋田県高次脳機能障害支援普及事業研修会に向けて) 1回 8名

主催はしていないが、協力・出席した会合（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・  
交流会相談会・ケース会議など）

- ◇ 平成24年度第1回秋田県高次脳機能障害支援事業相談支援ネットワーク委員会
- ◇ 平成24年度第1回高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議
- ◇ 平成24年度第1回高次脳機能障害支援普及全国連絡協議会
- ◇ 平成24年度第1回東北ブロック会議及び東北ブロックシンポジウム
- ◇ 平成24年度第2回東北ブロック会議及び東北ブロックシンポジウム
- ◇ 平成24年度第2回高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議
- ◇ 平成24年度秋田県高次脳機能障害支援普及事業研修会
- ◇ 平成24年度第2回秋田県高次脳機能障害支援事業相談支援ネットワーク委員会
- ◇ 家族会 4回参加

広報・啓発活動（パンフレット・機関誌・ウェブサイト・冊子・DVD等の発行や配布など）

- ◇ ウェブサイト(秋田県立リハビリテーション・精神医療センターホームページ、秋田県ホームページ)
- ◇ 平成24年度作成パンフレットの配布
  - ・秋田県立リハビリテーション・精神医療センター 外来待合室に設置
  - ・高次脳機能障害講演会参加者に配布
  - ・秋田県高次脳機能障害支援普及事業研修会参加者に配布
  - ・リハセン便りの発送とともに配布 559部(病院、介護保険施設、老人福祉施設、自立支援施設)

診断評価・リハビリテーションなど

- ◇ 専門外来
- ◇ 入院、リハビリテーション

その他の支援活動

- ◇ 家族会支援（郵送物作成・送付、連絡調整、会報配布）

<岩手県>

支援拠点機関名 いわてリハビリテーションセンター

支援コーディネーター（職種）

社会福祉士 2名、臨床心理士 2名

当事者／家族からの直接相談のべ件数（平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日まで）

電話 130 件

来院／来所 311 件

メール・書簡 21 件

その他（訪問・出張・同行等） 36 件

機関・施設等からの間接相談のべ件数（平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日まで）

電話 91 件

来院／来所 9 件

メール・書簡 24 件

その他（訪問・出張・同行等） 60 件

主催した会合・対象者・参加人数（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・交流会  
相談会・ケース会議など）

連絡会・協議会 4 回 81 人

研修会・講習会 5 回 235 人

ケース会議 12 回 103 人

家族会・交流会 1 回 46 人

主催はしていないが、協力・出席した会合（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・  
交流会相談会・ケース会議など）

連絡会・協議会 0 回

研修会・講習会 4 回 530 人

ケース会議 1 回 10 人

勉強会・研究会 2 回 60 人

家族会・交流会 0 回

広報・啓発活動（パンフレット・機関誌・ウェブサイト・冊子・DVD 等の発行や配布など）

・平成 22 年度にリーフレットをリニューアル作成し、今年度、新たにパンフレットを作成。

・平成 19 年度にホームページを開設し、今年度リニューアル。

調査・情報収集活動（実態調査・地域支援機関マップの作成など）

・平成 22 年度に支援機関マップを作成、今年度アップデート版を作成。

診断評価・リハビリテーションなど

・予約制で高次脳機能障害外来を実施している。

・外来リハビリは患者の状況に応じて週に 1～2 回程度行っている。

その他の支援活動

・脳外傷友の会「イーハトーヴ」主催の集団訓練プログラム「オレンジクラブ」に職員を派遣。

・県立療育センター主催の高次脳機能障害支援プログラムに職員を派遣。

## <山形県>

### 支援拠点機関名

- ・ 山形県高次脳機能障がい者支援センター（独立行政法人国立病院機構山形病院内）
- ・ 山形県庄内高次脳機能障がい者支援センター（庄内医療生活協同組合 鶴岡協立リハビリテーション病院内）

### 支援コーディネーター（職種）

- ・ 社会福祉士

### 当事者／家族からの直接相談のべ件数（25年3月末現在）

電話	149件（内訳・・・山形 101件、庄内 48件）
来院／来所	224件（内訳・・・山形 155件、庄内 69件）
メール・書簡	20件（内訳・・・山形 0件、庄内 20件）
その他（訪問・出張・同行等）	4件（内訳・・・山形 1件、庄内 3件）
計	397件（内訳・・・山形 257件、庄内 140件）

### 機関・施設等からの間接相談のべ件数（25年3月末現在）

電話	97件（内訳・・・山形 51件、庄内 46件）
来院／来所	12件（内訳・・・山形 2件、庄内 10件）
メール・書簡	16件（内訳・・・山形 0件、庄内 16件）
その他（訪問・出張・同行等）	2件（内訳・・・山形 1件、庄内 1件）
計	127件（内訳・・・山形 54件、庄内 73件）

### 主催した会合・対象者・参加人数（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・交流会 相談会・ケース会議など）

- ◇第1回山形県高次脳機能障がい研修会(H24,6,5) 対象：医療福祉関係者 参加人数：97名
- 山形県庄内高次脳機能障がい研修会(H24,11,10) 対象：医療福祉関係者一般市民 参加人数：121名
- ◇第2回山形県高次脳機能障がい研修会(H25,2,18) 対象：医療福祉関係者 参加人数：81名
- ◇高次脳機能障がい者支援センター運営委員会 3回開催 出席者：病院内スタッフ
- ◇巡回相談(H24,10,10、H24,11,8) 相談件数4件 懇談会対象者：医療福祉関係者 参加人数19名
- ◇ケース会議3回開催 参加者：本人、家族、医療関係者、福祉関係者
- ケース会議5回開催 参加者：本人、家族、医療関係者、福祉関係者
  - 4月18日 40代男性（復職支援） 6名参加
  - 9月27日 30代女性（在宅生活支援） 5名参加
  - 11月9日 30代男性（在宅生活支援） 4名参加
  - 11月14日 30代男性（在宅生活支援） 11名参加
  - 2月7日 30代女性（在宅生活支援） 6名参加
- 家族会
  - 5月16日 10名参加（本人・家族・医師・相談員）
  - 7月18日 9名参加（本人・家族・医師・相談員）

- 9月12日 10名参加 (本人・家族・医師・相談員)
- 11月14日 5名参加 (本人・家族・相談員)
- 2月13日 10名参加 (本人・家族・医師・相談員)

○院内学習会 4回

4月18日 8名 5月16日 10名 6月20日 15名 7月18日 15名

主催はしていないが、協力・出席した会合 (研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・交流会相談会・ケース会議など)

◇第49回日本リハビリテーション医学学会にて発表(H24, 5, 31~H24, 6, 2)

◇平成24年度第1回高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議・連絡協議会への出席(H24, 6, 26~H24, 6, 27)

◇平成24年度高次脳機能障害支援事業関係職員研修会への参加(H24, 6, 27~H24, 6, 29)

◇高次脳機能障害の当事者・家族を支援する(主催: NPO 法人ほっぷの森、朝日新聞厚生文化事業団)参加(H24, 7, 1)

◇第6回山形県高次脳機能障がい者リハビリテーション講習会(日本損害保険協会助成)(H24, 9, 23)  
対象: 当事者、家族、医療福祉関係者、関心のある方 参加人数: 294名

◇日本脳外傷友の会全国大会高次脳機能障害支援コーディネーター研修会への出席(H24, 9, 28)

◇日本脳外傷友の会第12回全国大会2012in とやまへの参加(H24, 9, 29)

◇東北作業療法学会にて講演(H24, 9, 29~H24, 9, 30)

◇ケース会議2回 参加者: 本人、家族、医療関係者、福祉関係者、事業所担当者

◇第1回東北ブロック会議への出席 (H24,10,13)

◇第7回日本リハビリテーション医学会専門医会への出席(H24,11,17~H24,11,18)

◇第66回国立病院総合医学会にて発表(H24,11,17)

◇青森県高次脳機能障害者リハビリテーション講習会にて講演(H24,12,15)

◇第2回東北ブロック会議への出席 (H25, 2, 1)

◇平成24年度第2回高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議・連絡協議会への出席(H25,2,22)

◇精神障害者雇用促進セミナーへの参加(H25, 2, 26)

◇山形県自立支援協議会 平成24年度第2回相談支援研究会(H25, 3, 12)

○研修会 5回

6月5日 平成24年度山形県高次脳機能障がい者支援普及事業所研修会  
第1回山形県高次脳機能研修会 (山形市) 1名参加

6月27日~29日 平成24年度高次脳機能障害者支援事業 関係職員研修会 (埼玉県) 1名参加

7月1日 朝日新聞厚生文化事業団主催研修会 1名参加

9月23日 第6回山形県高次脳機能障がい者リハビリテーション講習会 8名参加

2月18日 山形病院研修会 1名参加

○鶴峰園学習会講師 (OT) (H24.6.26) 1名参加

○施設学習会講師依頼(H24, 10 )